

リニューアル開館にむけて

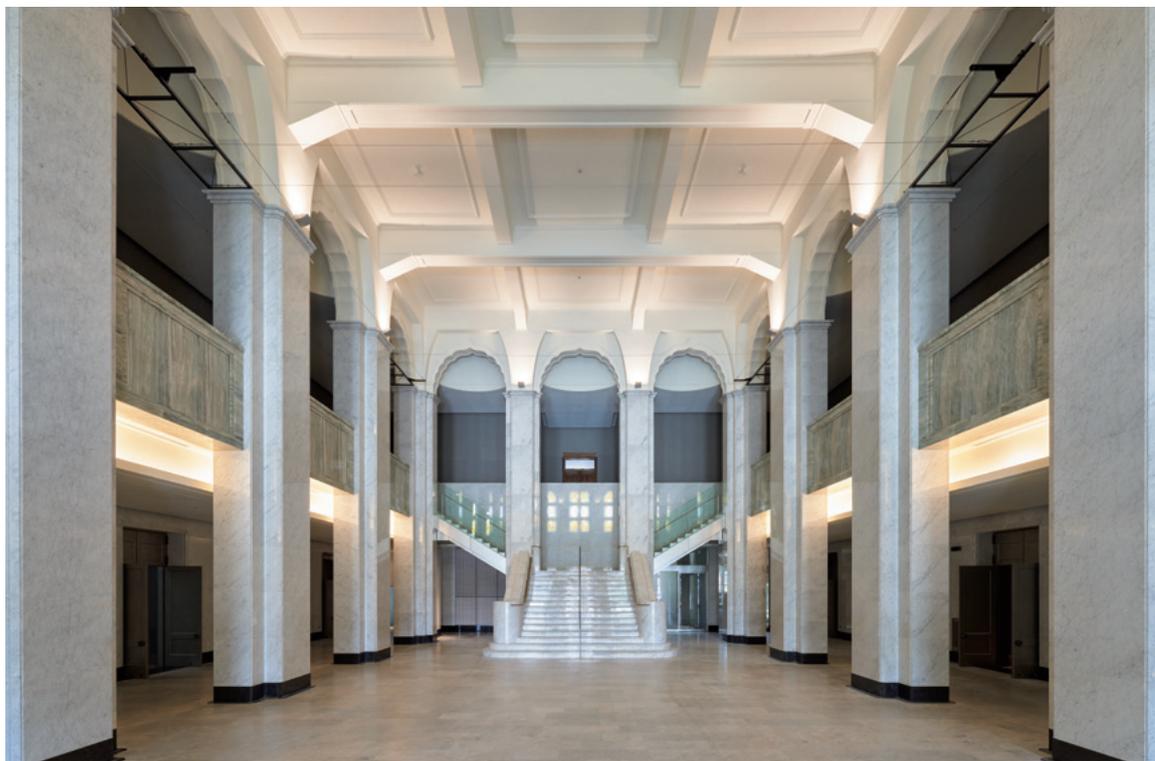
令和7年3月1日、大阪市立美術館は改修を終え皆さんのもとに戻ります。改修コンセプトの一つは「ひらかれたミュージアム」。今でも美術館は敷居が高いと言われることがあります。そこでまず入っていただくと考え、中央ホールを無料ゾーンとしました。入ってから気になる展覧会があれば、展示会場にもお越しください。「ひらかれた」にはもう一つ別の意味があります。建物の構造上、改修前は特別展の前後に休館していましたが、改修後は休館せずに展示替えができます。これにより年間300日の開館をめざします。

では展覧会はどう変わるのでしょうか。まず1階を企画展示、2階を特別展の会場とします。企画展示では世界的コレクションとして名高い中国の石仏や絵画、日本の仏教美術、絵画、工芸品などをご覧いただけます。また、特別展では西洋美術から東洋、日本美術にいたる幅広いテーマで展覧会を行います。

大正時代の末、美術館の設立準備委員会は、純粹美術（彫刻や絵画など）に應用美術（工芸品）を加え、洋の東西を問わず、古美術と新美術を展示すると決めました。一言でいえば「なんでもあり」です。100年を経て軌道修正は必要ですが、私はこの想いは大事にしています。これからも皆さまが日本美術を楽しみ、また世界の美術を旅する橋渡しとなるよう尽力いたします。



大阪市立美術館館長
内藤 栄



1



2



3

- 1 中央ホール
- 2 石仏(じゃおりうむ内)
- 3 展示室

撮影:佐々木香輔